

## 平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立平石北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成31年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 35人

② 算数 35人

#### 5 留意事項

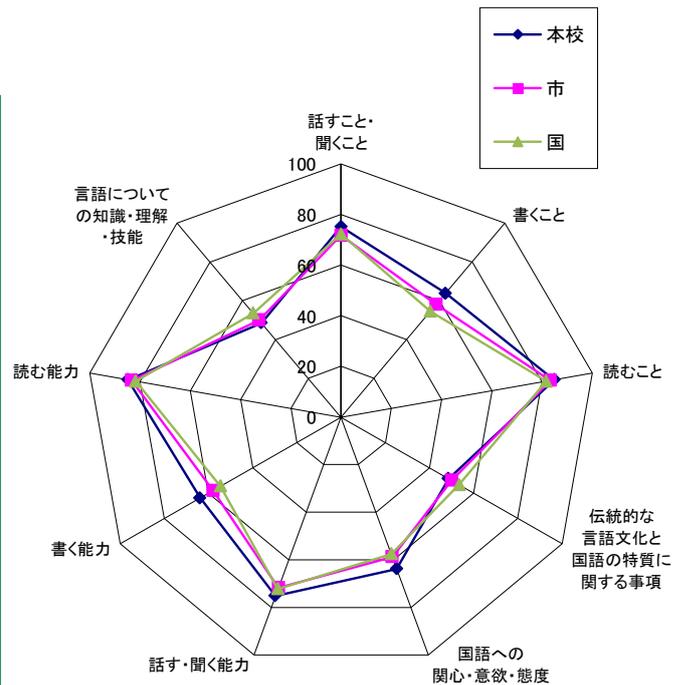
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立平石北小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	75.2	71.8	72.3
	書くこと	63.8	58.0	54.5
	読むこと	84.8	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	48.6	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	63.8	58.7	57.6
	話す・聞く能力	75.2	71.8	72.3
	書く能力	63.8	58.0	54.5
	読む能力	84.8	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	48.6	50.0	53.5



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

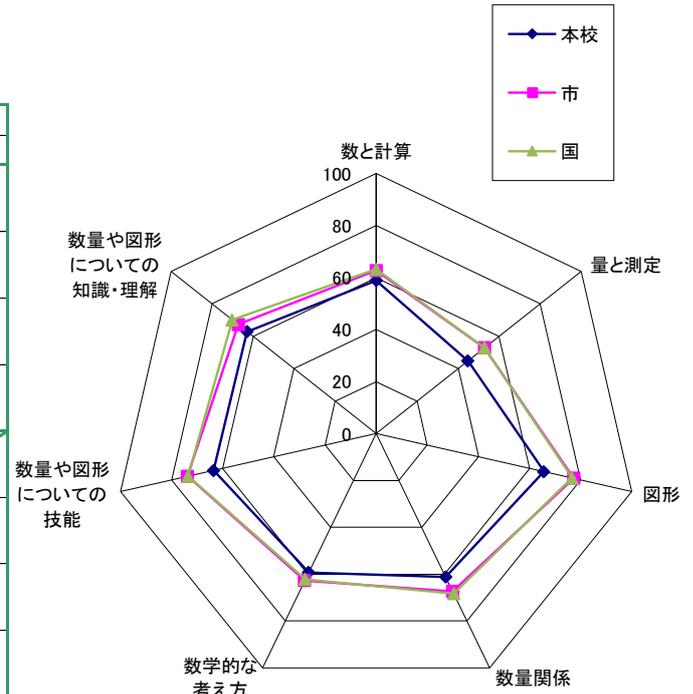
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、全国の平均を上回っている。</p> <p>○【インタビューの様子】の問題についての選択問題では、全国平均を4.0ポイント以上上回っている。</p> <p>●【インタビューの様子】から話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる記述式問題では、全国平均を0.4ポイント上回っているものの、無回答率が14.3ポイントと高い。</p>	<p>・課題に対する自分の考えをもつことや、自分と異なる考えに気付いたり、自分の意見と比べることができるよう、国語の時間に限らず話し合い活動を充実させていく。また、友達の考えを聞くときに、大切な部分をメモを取ることを指導することで、考えの共通点や相違点に気づき、自分の考えをまとめたり話したりすることができるようにする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、全国の平均を上回っている。</p> <p>○図表やグラフなどを用いた目的を捉える問題では、無回答がなかった。</p> <p>○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題では、記述式にもかかわらず11.2ポイント上回っている。</p>	<p>・いくつかの条件に合わせて書く練習をしてきたことで、決められた文字数以内にまとめて書いたり、目的に応じてふさわしい表現で書くことができるようになってきている。今後も、授業後の振り返りやまとめなど、短作文を書く機会を設け、目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書く活動を継続していく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、全国の平均を上回っている。</p> <p>○目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく問題についての記述問題では全国平均を、7.0ポイント上回っている。選択問題でも2.2ポイント上回っている。</p> <p>○目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む問題では、全国平均とほぼ同じである。</p>	<p>・読書量の個人差が大きく、正答率の低さや無回答の多さに影響していると考えられる。朝の活動での読書の時間を確保したり図書室の利用を推進したりし、学年の発達段階に合わせた内容の本が読めるように指導する。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、全国の平均を下回っている。</p> <p>●漢字を書く問題では3問中2問が全国平均を下回っている。とくに「かんしんをもってもらいたい」の「関心」が書けていない児童が多い。全国平均を18.5ポイント下回っている。</p> <p>●文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く問題では全国平均を16.4ポイント下回っている。</p>	<p>・補助教材を活用し、繰り返し漢字の練習をするとともに、漢字の意味を考えたり、同音異義語に注意したりして、文や文章の中で正しく使うよう指導する。</p> <p>・文脈に沿って接続語の働きを理解したり、文と文の意味のつながりを考えるよう指導する。</p>

# 宇都宮市立平石北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	58.8	62.7	63.2
	量と測定	44.8	52.9	52.9
	図形	65.7	77.3	76.7
	数量関係	61.2	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	59.3	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	63.6	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	62.9	67.2	70.1



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、全国の平均を下回っている。</p> <p>○示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式する問題については県や全国の正答率を10.0ポイント以上上回った。</p> <p>●加法と乗法の混合した整数と小数の計算は、県や全国の正答率を10.0ポイント以上下回った。</p>	<p>・計算の仕方(立式)までは考えることができる。それを正確に解くことがまだ十分ではない。くり返し練習を多く取り入れていきたい。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、全国の平均を下回っている。</p> <p>○単位量あたりの大きさを基に、求め方と答えを記述し判断する問題では、県や全国の平均とほぼ同じだった。</p> <p>●図形の面積の求め方の記述や、グラフから一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する問題については、県や全国の正答率を8.0ポイント以上下回った。</p>	<p>・計算として答えを出すことは出来るが、その求め方や比べた結果、理由を記述することが十分ではない。答えを出すだけでなく、なぜそうしたのかを考える(説明する)時間を多く取り入れていきたい。</p>
図形	<p>平均正答率は、全国の平均を下回っている。</p> <p>●複数の同じ図形を組み合わせてできる図形を見つける問題の正答率が、県や全国を10.0ポイント以上下回った。</p>	<p>・図形の性質や構成要素についての理解が十分にできていないことが要因と考えられる。1つの図形の理解だけでなく、複数の図形が組み合わせられた時のとらえ方も指導していきたい。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、全国の平均を下回っている。</p> <p>○棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る問題や、示された除法の式の意味を理解する問題については、県や全国の平均をやや上回った。</p> <p>●加法と乗法の混合した整数と小数の計算については、県や全国を15.0ポイント近く下回った。</p>	<p>・グラフの読み取りだけでなく、2つのグラフからその関係を読み取り、理由を考えるという学習を取り入れたい。</p> <p>・計算のきまりはある程度理解しているが、正確に計算することが十分ではない。くり返し計算練習をさらに強化していきたい。</p>

## 宇都宮市立平石北小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べているか」「毎日同じくらいの時刻に寝ているか」「毎日同じくらいの時刻に起きているか」の基本的な生活習慣に関する質問について、いずれも肯定的回答が県や全国の割合を上回った。朝食については100%の児童が毎日食べていると答え、ほとんどの児童が規則正しい生活を送っている。引き続き家庭での生活の過ごし方と関連させ指導していきたい。

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあるか」では100%、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか」では、80%以上がの質問に対して、ともに肯定的回答をし、県や全国の割合を上回った。達成感を得られる経験をすることは大切なことである。様々なことにチャレンジさせて、最後まで粘り強く頑張ることを今後も経験させていきたい。

○読書に関する質問では、県や全国の割合を大きく上回った。週2回の読書タイム、国語の時間、家読の推奨により、日常的に読書に親しむ児童が増えている。今後も図書室の積極的な活用や、様々な読書活動に取り組みせ、あわせて家庭での読書の啓発を行うなど、読書好きの児童を増やしていきたい。一方、読書量の個人差も見られるので、個別で指導していきたい。

○算数の学習に関する質問では、ほぼすべての項目で県や全国の割合を大きく上回っている。日頃の授業の様子からも意欲的に取り組んでいる児童が多く「できる」「分かる」問題が増えるとともに生き生きとした表情で問題に取り組もうとする姿勢が見られる。今後も「できた」「分かった」という経験を増やし、さらに日常生活と具体的に連動させる学習を意識し、学習内容を生活に生かしたよさの意味付けをすることで、役に立つ楽しい算数を実感させていきたい。

●「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか」「学級生活をよりよくするために話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか」「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいるか」等の話し合いに関する質問において、県の割合を下回った。学習の場面だけでなく、教育活動全般の中で話し合う機会を意図的に設定していきたい。そして、多様な考えや価値を認め合える話し合い活動を通し、自分の考えを深めたり、広げたりすることの良さを児童が実感できるようにしていく。

●コンピュータなどのICTの活用に関する質問では、県の割合を10%程下回った。各教科において積極的にICTを活用した授業を展開していく必要がある。

●「国語の勉強は好きですか」の質問では、県や全国の平均を下回った。国語では、昨年度に比べ各領域で正答率が上がっているが、「好き」と思う児童は割合を下回った。授業等において「分かる」「できる」「楽しい」と実感できるよう指導の工夫をしていきたい。

●自己肯定感や自己有感についての質問では、80%以上の児童が肯定的回答をしているものの、いずれも県の割合を

## 宇都宮市立平石北小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「わかった!」「できた!」「楽しい!」を実感。 ～学びにおける基礎・基本の重視と伝え合う活動の工夫～	基礎・基本が確実に身に付くように学校全体で共通理解し、全職員で朝の学習の指導に取り組んだり、自由学習コーナーを設置したりして学習の定着を図る。	「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の質問に肯定的回答をした児童は85.7%だった。また、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に肯定的回答をした児童は97.2%だった。自分から主体的に学習する習慣が身に付いてきている。
	話し合いなどの言語活動の充実を図り、学習形態を工夫自分の考えを深め、授業の中で話し合う、発表し合うなどの伝え合う場面を意図的に設定する。	「学級の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか」との質問に肯定的回答をした児童は74.3%だった。ペアやグループで活動など学び合いを深める学習形態を工夫してきたことで、多様な意見に触れながら自分の考えを伝えることができるようになった。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
思考力・判断力・表現力に関わる問題に課題が見られる。	習得した知識及び技能を活用しながら課題を探究し、思考力・判断力・表現力を育成する。	教科書の発展的な問題や調査問題等を用いて、学習したことを活用しながら解決を図るような問題場面や学習課題を意図的に設定する。また、問題の場面を具体的な場面に置き換えられるよう数直線や線分図に表せるようにしたり、操作的・作業的な活動を取り入れることで、実感を伴って理解させるような指導をしていく。
文章を読み取る力や最後まで読む活動に課題が見られる。	資料から読み取ったり、長文を読む問題にも根気強く取り組むことを指導する。	文章を最後まで読み取り、キーワードを見つけたり要点をまとめたりする活動を授業で取り入れる。また、初めての文章にも抵抗なく取り組んだり、最後まで読み進めたりすることができるような指導の充実を図る。教科書教材以外の文章を授業で活用したり、様々な分野の本を読んだりすることをすすめていく。